

—概要—

2016年4月から、当院における認知症およびその疑いのある入院患者を対象として評価を行う認知症ケアセンターが立ち上げられ、さらにその円滑な運用及び適正な活動を行えるように2017年2月1日に認知症ケアセンター運営委員会が立ち上げられた。この委員会での決定事項を中心として具体的な行動内容についての努力を継続している。

当院においても増加している認知症を持っている入院患者に対して、認知症サポート医、認知症看護認定看護師(CN)を中心に薬剤師、リハビリテーション科、ソーシャルワーカーなどの多職種が参画している。これらの集団によるグループディスカッションにより認知症を有する入院患者やせん妄が入院後に出現した患者に対して包括的なリスク評価とよりよいケアのためにそれぞれの独自性を活かしてより良い治療やケアが提供できるよう努めている。認知症に係る地域医療体制構築の中核的な役割を担う将来像を目標としている。

—今年度の成果と反省点—

入院時の判定により認知症ケアチームへの患者登録がなされ、認知症ケアセンター運営委員会での算定実績が報告されている。現在は診療報酬請求の規定に従って短期での身体拘束にまとめるのが望ましいが、病棟運営上難しいところもありそれに対して委員会や回診でのアドバイスをを行っている。CNによる回診は週2回、多職種によるカンファは週1回金曜日に実施している。実際の診察と病棟担当者とのディスカッションを通じて上記の認知症ケアの向上に努めている。また、今年度は認知症ケアe-learningの実施とせん妄マニュアル、認知症マニュアルの改訂を行った。前者に関しては当院CNによるイントラwebを用いたe-learningであり、当院のNSはほぼ100%の視聴率を達成できている。また、このe-learning実施後から回診での検討等についても向上してきたと考えられる。後者に関しては、まず日常病棟対応で必須の、せん妄マニュアルの改訂を行った。従来のマニュアルでは著述的に記載されていたことから、内容の妥当性については若干の危惧があった。このことから、認知症ケアチームのそれぞれの職種から文面を出し合っ

てトを多く増やし内容を充実させ冊子として完成させた。今後入院患者や家族への配布をすすめ、入院患者における認知症やせん妄への理解を深めていく。

—来年度への抱負—

週1回の認知症ケア回診を継続しさらに入院患者における認知症・せん妄への適切な治療・適切なケアの浸透に寄与していきたいと考えている。患者にとってもその家族にとっても認知症・せん妄は想定外かつ不安な病態であり、正しい知識や対応を身につけることは重要である。病棟での患者対応だけではなく、家族との対応、さらに地域への認知症サポーターとの連携や退院支援も含めてより適正化する必要がある。認知症を専門としない当院において、どのようなことが可能か、またその適正化について何が重要かを繰り返してディスカッションを行い、アウトプットを目指していきたいと考えている。